

報道関係各位

フィリップス、日本初開催の医療・ヘルスケア国際見本市「Japan Health」に出展 「医療現場のサステナビリティ」をテーマにしたランチョンセミナーを開催

～持続可能な医療の実現に向け、医療機関とホームケアの現場からの視点を共有
災害対応や在宅医療、環境配慮型 MRI など、多様な実践例が集結～

株式会社フィリップス・ジャパン（本社：東京都港区、代表取締役社長：ジャスパール・アスエラス・ウェステリンク、以下フィリップス）は、2025年6月25日（水）から27日（金）までインテックス大阪で開催された、日本初開催の医療・ヘルスケア国際見本市「Japan Health」に出展しました。出展にあわせて開催したランチョンセミナー「医療現場のサステナビリティ：医療機関とホームケアの視点から」では、地域医療や在宅ケア、災害時医療支援の視点から、持続可能な医療のあり方について多角的な議論が行われました。



【フィリップス共催ランチョンセミナー】

「医療現場のサステナビリティ：医療機関とホームケアの視点から」

2025年6月26日（木）、フィリップスはJapan Health会場内のカンファレンス会場にて、ランチョンセミナー「医療現場のサステナビリティ：医療機関とホームケアの視点から」を開催しました。現場の視点からサステナブルな医療の実現を考えるべく、3名の医師が登壇し、クリニック、在宅医療、医療的ケア児災害支援という多様な切り口で、課題と取り組みを共有しました。

セミナー冒頭では、同社プレジジョンダイアグノシス事業部 MR ビジネスマーケティングマネージャーの奥秋と、スリープ&レスピラトリーケア事業部長の安部が進行を務め、フィリップスが目指す「Better care for more people」（よりよいケアをより多くの人へ）というビジョンのもと、本セッションの趣旨が紹介されました。



<第1部>

「クリニックから始める持続可能な医療づくり～ヘリウムフリーMRI 導入の現場から～」

登壇者：加古伸雄先生（あいち健康クリニック 理事長）

加古先生は、人口約6万人の愛知県津島市で健診・保険診療を行う地域密着型クリニックの立場から、環境・医療の両面で持続可能性を意識した医療機器導入の実践例として、フィリップス製のヘリウムフリーMRI「MR5300」の導入事例を紹介しました。通常約1,500リットル必要な液体ヘリウムをわずか7リットルに抑えるBlueSealマグネットの技術により、環境負荷を低減。さらに、自然災害時でも機器を保全しやすく、医療継続性が確保されるという観点から、災害対策の観点でも大きな意義をもつ選定であると語られました。また、画像診断を基点とした他院との連携スキームの構築や、健診からの精密検査誘導による医療資源の効率運用といった点にも触れ、地域医療におけるヘリウムフリーMRIによるサステナブルな運営のヒントが提示されました。



<第2部>

「世界と日本における医療的ケア児の状況と小児医療の進歩-小児の在宅人工呼吸法の現状と課題にフォーカスして」

「日本における医療的ケア児への在宅ケア」

登壇者：前田浩利先生（医療法人財団はるたか会 理事長）

続く第2部では、日本において医療的ケア児が年々増加しているという統計データを基に、在宅ケアの現状と法整備の重要性について講演しました。医療的ケア児とは、人工呼吸器や経管栄養など、継続的な医療的支援が必要な子どもたちのことを指し、その数は2008年比で2倍、人工呼吸器使用児は12倍に増加しているとされます。こうした背景の中で、NICU（新生児集中治療室）の病床利用率が高くなっていることによる病床不足を問題視、在宅ケアの必要性を訴えました。2021年に制定された「医療的ケア児支援法」は、小児医療従事者にとって国からの大きな支援のメッセージであると強調。講演では、制度面に加え、在宅医療の現場で求められるチームケアや家族支援の実際、さらに国際的に見た医療的ケア児支援の先進事例なども紹介され、制度と実践の両輪で持続可能性を考えるきっかけが提供されました。



「お子さんの暮らしと成育の危機を支える災害ロジスティクス～呼吸を中心に～」

登壇者：戸谷剛先生（あおぞら診療所うえの 院長）

最後に、戸谷先生は、災害時において人工呼吸器や酸素療法が必要な医療的ケア児が直面する現実を明らかにし、地域全体で支える災害支援体制の必要性を訴えました。例えば電源喪失は生命の危機に直結するため、モバイルバッテリーや発電機、医療機器の管理といった個別対応の限界を超え、地域単位で「医療型避難所」や「災害時医療ネットワーク」を構築することが喫緊の課題であると述べました。さらに、医



療デバイスのメンテナンス、情報共有の仕組み、行政との連携設計など、多職種が平時から協働する必要性も強調され、災害レジリエンスと災害ロジスティックスの新たな形が提示されました。

本セミナーを通じて、医療現場が直面する環境・社会的課題に対して、現場での知見と技術の融合が果たす役割の大きさが改めて示されました。フィリップスは今後も、持続可能な医療の実現に貢献すべく、現場とともに歩む取り組みを継続してまいります。

【セミナー】「人材不足を補う革新的技術」

同日には、「人材不足を補う革新的技術」をテーマとしたセミナーが開催され、官・民・学・海外医療機関から多様な登壇者が一堂に会しました。フィリップス・ジャパン代表取締役社長のジャスパー・アスエラス・ウェステリンクをはじめ、厚生労働省 医療技監の追井正深氏、韓国 Samsung Medical Centre の CIO Son Meong Hi 氏などが登壇し、ヘルステックの現場における人材不足への対応や、先端技術を活用した業務効率化の事例が紹介されました。



フィリップスからは、グローバルで展開している遠隔集中治療管理（eICU）や AI を用いた診断ワークフロー最適化の取り組みが紹介され、人材不足という喫緊の課題に対して、国や制度の枠を越えた多角的なアプローチの必要性が示されました。また病院における ROI を上げるためには、ワークフローの改善を行い、ヘルスケアコストを削減することが必要で、AI を活用して画像診断の精度や速度の向上を図る SmartSpeed が例として紹介されました。ディスカッションでは、制度設計・民間技術・教育の連携による持続可能な医療人材確保策について議論が交わされ、来場者の高い関心を集めました。

【セミナー】「パネルディスカッション AI×診断」 at FUTURE HEALTH SUMMIT

展示会最終日の 6 月 27 日（金）には、「FUTURE HEALTH SUMMIT」内のプログラムとして、パネルディスカッション「AI×診断」が開催され、フィリップスを含む医療機器メーカー、行政、学術機関など、国内外の関係者が集い、AI 技術の医療現場への実装について議論が行われました。



フィリップス・ジャパン プレシジョンダイアグノシス事業部長の門原は、AI による画像診断支援の進化をテーマに登壇。MRI 検査の計画から読影、レポート生成に至るまでを統合的に支援する「End-to-End MRI ソリューション」や、非接触の呼吸モニタリング「VitalEye」、高速画像再構成を可能にする「SmartSpeed」など、診断精度と効率の向上を図る技術について紹介しました。

登壇者間では、AI の活用が医師の業務負荷軽減や診断の質向上にどのように寄与できるか、多様な視点からの意見交換がなされ、今後の医療とテクノロジーの共進化への期待が高まるセッションとなりました。

【出展ブースについて】

フィリップスの出展ブースでは、「Better care for more people」（よりよいケアをより多くの人へ）というビジョンのもと、社が注力する3つのテーマに沿って最新技術や取り組みが紹介されました。

- ① 医療 × サステナビリティ
- ② 病院におけるワークフローの最適化
- ③ 医療現場における災害対策

また、展示会初日にはオランダ王国との共同でリボンカットセレモニーが実施されました。セレモニーには吉村洋文大阪府知事も参列し、官民・国際連携の象徴的なイベントとして注目を集めました。



(左) ジャスパー・アスエラス・ウェステリンク
(右) 吉村洋文大阪府知事



同日には戦略的パートナーシップに関するセレモニーも行われ、同社の長期的な協業姿勢が対外的に示される機会となりました。

(左) ジャスパー・アスエラス・ウェステリンク
(右) 株式会社アダチ 代表取締役 足立三朗氏



最終日には、前内閣総理大臣 衆議院議員 岸田文雄氏がフィリップスのブースを訪れ、ヘリウムフリーの次世代 MRI「BlueSeal」などを視察されました。



(左から) ヤン・ウィレン・スハイフフロント (Vice-President, Global Head, Government and Public Affairs, Royal Philips)、ジャスパー・アスエラス・ウェステリンク、岩田潤 (Head of Government and Public Affairs Japan, Philips Japan)、前内閣総理大臣 衆議院議員 岸田文雄氏

開催概要

■日時：2025年6月25日（水）～27日（金）10:00～17:00

■会場：インテックス大阪

■主な出展内容：

ヘリウムフリーMRI「MR5300」、遠隔治療ソリューション、災害対策支援技術、診断支援AIソリューションほか

■セミナー：

6/26（木）ランチョンセミナー3C：「医療現場のサステナビリティ：医療機関とホームケアの視点から」

6/26（木）セミナー3E：「人材不足を補う革新的技術」

6/27（金）セミナー5E：「パネルディスカッションAI×診断」

■URL：<https://japanhealthonline.com/>

フィリップス・ジャパンについて

株式会社フィリップス・ジャパンは、ロイヤルフィリップスの日本法人として1953年に創業以来、革新的な技術を通じ、人々のよりよい健康と満ち足りた生活の実現を目指しています。主な事業領域は、画像診断、超音波診断、イメージガイド下治療、生体情報モニタ、ヘルスインフォマティクス、睡眠・呼吸治療、およびパーソナルヘルスと多岐に渡ります。ヘルステクノロジーのリーディングカンパニーとして、超高齢化が進む日本の医療・健康課題解決に向け取り組んでいます。日本の従業員数は約2,000人、約70拠点でビジネスを展開しています。（<https://www.philips.co.jp>）

ロイヤルフィリップスについて

ロイヤルフィリップス（NYSE:PHG, AEX:PHI）は、革新的な技術を通じ、人々のより良い健康と満ち足りた生活の実現を目指す、ヘルステクノロジーのリーディングカンパニーです。フィリップスの革新的技術は人々を中心に設計されています。先進的技術と医療従事者および消費者のインサイトを活用し、消費者にはパーソナルヘルスソリューションを、医療従事者とその患者様には病院や家庭でのプロフェッショナルヘルスソリューションを提供しています。オランダに本社を置く当社は、画像診断、超音波診断、イメージガイド下治療、生体情報モニタ、ヘルスインフォマティクス、およびパーソナルヘルスの分野で世界をリードしています。フィリップスの2024年の売上高は180億ユーロ、全世界に約69,700人の従業員を擁し、世界100か国以上でビジネスを展開しています。フィリップスに関するニュースはこちらからご覧ください。（<http://www.philips.com/newscenter/>）

販売名：フィリップス Ambition 1.5T

医療機器認証番号：231AFBZX00015000

設置管理医療機器 / 特定保守管理医療機器
管理医療機器

本件に関するお問い合わせ

株式会社フィリップス・ジャパン

ブランド&コミュニケーションズ

press@philips.co

フィリップス広報事務局

秋山、高松

PHILIPS

E-mail : philips-corp@prap.co.jp Tel : 090-3670-8470 (秋山) 、 090-4213-6995 (高松)